令和6年度　自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会
幸輪保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
Ⅰ　保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の理念に基づいて、保育方針や保育目標を揚げ、保育課程や保育活動計画を作成。保育指針が 0・1・2 歳児の保育の重要性と記載の充実があげられていることから、個々の発達を踏まえた上での年間計画や月間計画を立て、生活の連続性や乳児期にふさわしい経験が積み重ねられるようこれからも保育実践を充実させたい。
Ⅱ　保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	異年齢保育では子どもたちが互いに刺激を受けながら育ち合う姿が見られていた。多角的に子どもたちの姿を見ることができるよう、チーム保育を行っている。子どもたちの一人ひとりの個性を尊重し、個々の発達を保障するため、子どもたちが興味や関心を見落とすことなく広げていけるようカリキュラムを作成し実践した。
Ⅲ　保育者としての資質や能力、良識、適正	保育士の保育経験（年数・方法）に開きがある。日々チーム内でケース会議を行い、保育理念や保育方法についての共通理解を図るとともに、職員一人ひとりの能力の向上に努めている。また、子どもたちが様々な経験が出来る保育集団を目指し、職員のそれぞれの得意分野を保育に取り入れ、チーム力を上げようとしている。経験が少ない若い保育士においても、新鮮なアイデアを発揮したり、チームビルディング研修にて協働の良さを味わったりしている。園長・副主任においては、東京のモデル園への研修視察を実施した。
Ⅳ　保護者への対応・支援	保護者の立場を尊重し家庭と保育園との信頼関係を築き、協力しながら子どもの育ちを支えている。また、子どもの成長を共有し必要に応じて、どのような関わりや環境が必要なのか等を保育の専門性を生かし保護者に伝えている。保育士は子どもの園での様子をこまめに伝え、成長を共有できるよう努めている。
Ⅴ　地域や社会との関わり・地域子育て支援	園周辺を散歩する際には地域の方の協力のもと、季節の作物に触れる機会を作っていただき、子どもたちが自然に触れることが出来る。また、園周辺のお散歩等を通して子どもたちは地域の方との触れ合いの中で社会性を身に付けることが出来ている。地域のデイサービスや文化祭などへ参加し、地域のお年寄りの方との触れ合いも楽しんだ。 電話でのお問い合わせ等で地域の方には気軽に相談していただけるように取り組んだ。
Ⅵ　保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	法人独自の研修を実施し、法人の保育理念や保育方法についての共通認識を醸成している。また自己課題を明確にして園内研修を行い、課題の解決にあたっている。個々の課題に応じた研修に参加し、保育の専門性を高め知識の習得に努めている。今後の更なる保育の質の向上を目指している。